

令和3年度 第1回文京区アカデミー推進本部 次第

(日時) 令和3年7月7日(水)午前9時30分から

(会場) 区議会第一委員会室

1 開 会

2 議 題

(1) 文京区アカデミー推進計画の改定について

3 閉 会

【配付資料】

資料1-1 文京区アカデミー推進計画の改定について

資料1-2 次期文京区アカデミー推進計画の構成(案)

資料2 次期文京区アカデミー推進計画の基本理念

資料3 次期文京区アカデミー推進計画の3つの多様性

文京区アカデミー推進計画の改定について

1 改定の趣旨

「文京区アカデミー推進計画（平成 28 年度～令和 3 年度）」の計画期間終了に伴い、昨今の社会情勢の変化や国や都の政策動向、令和元年度に実施した実態調査結果等を踏まえ、本計画の改定を行う。

なお、本計画の改定は、令和 2 年度に実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、令和 3 年度に延期した。計画改定の延期により、現在のアカデミー推進計画の計画期間を令和 3 年度まで延長した。

2 計画期間

令和 4 年度～令和 8 年度（5 年間）

3 計画の構成（案）

別紙のとおり

4 検討組織

文京区アカデミー推進協議会

(1) 委員 27 名

学識経験者 3 名、団体推薦 19 名、公募区民 5 名

(2) 幹事 5 名

アカデミー推進部長、アカデミー推進課長、観光・都市交流担当課長、スポーツ振興課長（オリンピック・パラリンピック推進担当課長兼務）、真砂中央図書館長

5 スケジュール（予定）

令和 3 年 4 月 16 日	第 1 回アカデミー推進協議会
5 月 11 日	第 2 回アカデミー推進協議会
6 月 7～9 日	分野別分科会
7 月 5 日	第 3 回アカデミー推進協議会
7 月	常任委員会（骨子）
7～9 月	分野別分科会
9～10 月	第 4 回・第 5 回アカデミー推進協議会
11 月	定例議会（素案）
12 月	パブリックコメントの実施
令和 4 年 1 月	第 6 回アカデミー推進協議会
2 月	定例議会（案）
3 月	計画改定

次期文京区アカデミー推進計画の構成（案）

第1章 計画の趣旨と考え方

1. 策定の背景と目的
2. 計画の位置付け
3. 計画の期間
4. 計画の構成
5. 基本理念
6. 3つの多様性
7. 計画の体系

第2章 5つの分野の施策

1. 学習活動
2. スポーツ
3. 文化芸術
4. 観光
5. 国内・国際交流

第3章 計画の推進体制と評価の考え方

1. 計画の推進体制
2. 評価の考え方とPDCAサイクル

第4章 分野別アカデミー推進事業一覧

資料編

次期文京区アカデミー推進計画の構成（案）

次期文京区アカデミー推進計画

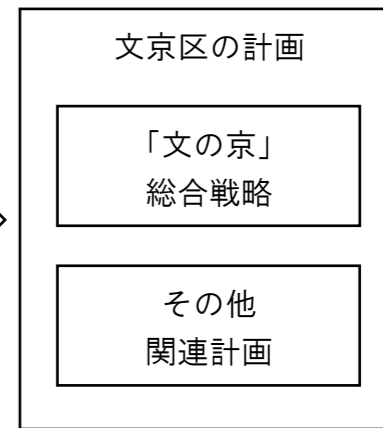
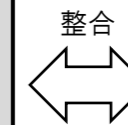
第1章 計画の趣旨と考え方

1. 策定の背景と目的
2. 計画の位置付け
3. 計画の期間
4. 計画の構成
5. 基本理念
6. 3つの多様性
7. 計画の体系

○基本理念は「区内まるごとキャンパスに」とする。計画策定の視点として「多様性」を掲げる。

○3つの多様性は以下の通り。これらの多様性を重視しながら、異なる主体や分野をうまくつなげ、相互に連携を図ることで新たな価値の創出を目指す。

1. 人の多様性 年代、ライフスタイル、興味・関心・能力の違いに応じた各分野の取組を推進するとともに、区や区民と様々な方法で継続的に関わる「関係人口」の創出を推進する。
2. 環境の多様性 時間帯、場所にとらわれず各分野に親しめるように対面形式だけでなく、オンライン形式なども活用した取組を推進する。
3. 資源の多様性 各分野の定義を柔軟にするよう努める一方で、行政が担う役割等を明確にする必要がある。また、区内にある関連施設の活用や活動を支える人材育成に力を入れる必要がある。



第2章 5つの分野の施策

1. 学習活動
 - (1) 学習活動とは
 - (2) 現状と課題
 - (3) 施策体系の考え方
 - (4) 目標と取組の方向性

※以下、各分野同項目を予定
2. スポーツ
3. 文化芸術
4. 観光
5. 国内・国際交流

○各分野の(1)～(4)は主に分科会で協議する。

○(3)の施策体系イメージは下表、(4)のイメージは右図の通りである。それぞれ現行計画から生涯学習分野のものを引用。

○(4)は目標、取組の方向性に対する考え方を示すとともに、主な事業を抜粋して掲載する。

分野別目標	基本的な方向
1. いつでも、どこでも、だれでも学習や活動ができる機会の提供・充実	(1) 多様な講座や学習機会の提供・充実 (2) 学習や活動ができる環境の提供 (3) あらゆる立場の人たちに対応した学習支援の充実 (4) 地域の学習拠点としての図書館づくり
2. 一人ひとりの学びの成果を活かす機会の提供・充実	(1) 主体的な活動を支える仕組みづくり (2) 活動成果披露の場の充実 (3) 人材育成・活用の推進
3. 学びの継続を通じたまちづくり	(1) 学びを通じた交流・仲間づくりの推進 (2) 地域で支える学習環境の充実 (3) 学び合いとまちづくりにつながる学習の促進

1. いつでも、どこでも、だれでも学習や活動ができる機会の提供・充実

本区では、これまで多くの大学等の教育機関と連携し、多様な生涯学習の機会の提供・充実を図るとともに、だれでも学習や活動しやすい環境づくりに取り組んできました。「文教の府」とも呼ばれている区内の貴重な学習資源を活用し、多様化する区民のニーズに対応した、より質の高い学習や活動の機会を提供・充実していくことは、今後の生涯学習の推進にあり重要です。

そのためには、これまで以上に生涯学習講座等の充実を図る必要があります。図書館等、区民に身近な学習・文化施設と連携し、ライフスタイルや障害の有無等、区民一人ひとりの状況に応じて、いつでも、だれでも自分にあった学習や活動の場を確保できる機会の充実を図ります。

(1)多様な講座や学習機会の提供・充実

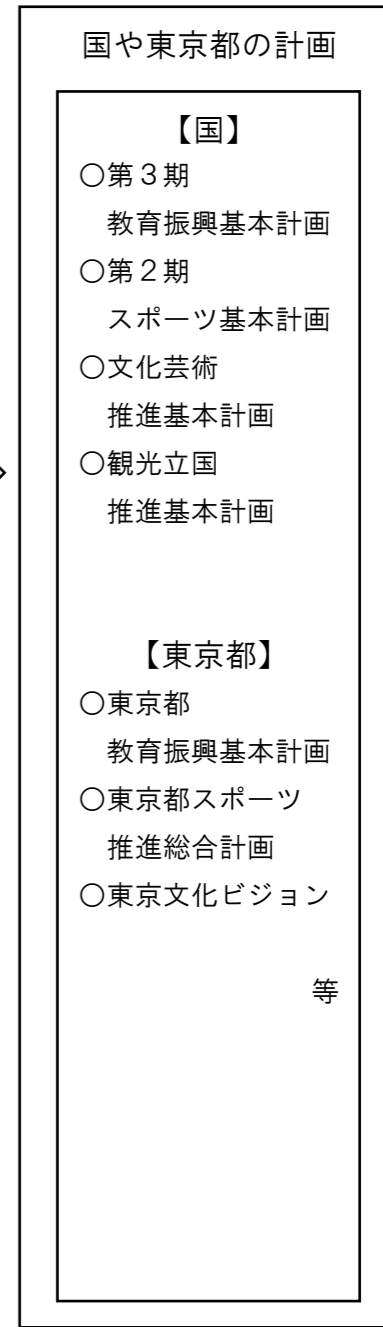
○区民の多様なニーズに対応した生涯学習講座の提供に取り組みます。

○様々な分野の内容を学べる講座を提供するとともに、大学・企業等と連携し、専門分野を深める講座の提供にも取り組みます。

事業名	概要
文京区アカデミア講座	区民の学習を支援するため、地域、文学、歴史・社会、自然科学、芸術、くらし、語学、健康・スポーツ等、バラエティに富んだ講座を提供します。
文京いきいきアカデミア講座	高齢者を対象とした2年制講座。1年次は教養課程で共通科目を履修し、2年次の専門課程に進みます。専門課程は、共通科目と選択科目を受講し、所定の受講回数(単位)をもって卒業認定とします。
企業等連携講座(メセナ講演会)	企業等が社会貢献活動の一環として実施するビジネスやマネジメントをはじめとした多様な講座の企画・提案を募り、協力・連携して講座(講演会)を開催します。
大学プロデュース特別公開講座(学長講演会)	大学のもつ高度で専門的な学習機能や人材を活用した事業として、大学プロデュース特別公開講座(大学学長の講演会)を実施します。

■今後実施を検討する事業

▶ 学習機会としてのサークル活動の充実を支援する事業



第3章 計画の推進体制と評価の考え方

1. 計画の推進体制
2. 評価の考え方とPDCAサイクル

第4章 分野別アカデミー推進事業一覧

1. 学習活動
2. スポーツ
3. 文化芸術
4. 観光
5. 国内・国際交流

資料編

1. 文京区アカデミー推進計画 検討経過
2. 文京区アカデミー推進計画協議会委員名簿
3. アカデミー推進協議会設置要綱
4. 文京区アカデミー推進本部設置要綱
5. 文京区アカデミー構想(抜粋)
6. 用語解説

次期文京区アカデミー推進計画の基本理念

1 現行の文京区アカデミー推進計画における基本理念について

(1) 現行計画の基本理念

区内まるごとキャンパスに —「文の京」、豊かな学びと交流を生み出すまち—

本区には、日本の近世、近代の教育において大きな役割を果たした昌平坂学問所、そして「アカデミー推進計画」の名称の由来でもある 19 の大学をはじめとした教育施設・教育機関が数多く集積しています。また、森鷗外や夏目漱石、樋口一葉をはじめとする、近代文学を築いた多くの文人ゆかりの地であり、さらには特別名勝である小石川後樂園や六義園等の庭園、由緒ある寺社や近代建築も点在しています。その一方で本区は、響きの森文京公会堂（文京シビックホール）や生涯学習施設（アカデミー文京等）、文京ふるさと歴史館、森鷗外記念館等の文化・生涯学習施設はもとより、東京 23 区でも有数となる 10 箇所の区立図書館、そして文京スポーツセンターや小石川運動場等の 7 つのスポーツ施設を屋内外に整備しています。

人材の観点からも、大学、事業者、NPO等、様々な場において多くの人たちが活躍しており、さらに、外国人居住者や様々な国から訪れている留学生が多くいることも特徴です。このように多彩で豊かな文化・歴史・学びに関する資源を有する環境を大切に保存するとともに、区内で暮らし過ごす人たちが、自分や人のため、地域のために有効に活用し、「いつでも・どこでも・だれでも」が学び、交流することを目指します。そして、それら学びと交流を通じ、多様な人たちが互いに触発しながら、「文の京」として築いてきた価値を継承し、さらには新しい価値を創造することで新たな「文の京」を区民等とともに生み出すようなまち—「区内まるごとキャンパスに」—を実現します。

このような考え方から、前計画の基本理念「区内まるごとキャンパスに」を引き継ぎつつ、副題を『「文の京」、豊かな学びと交流を生み出すまち』と改定しました。

2 次期文京区アカデミー推進計画の基本理念の作成にあたって

(1) 文京区の地域特性と目指す方向性

①文京区的地域特性

- 19の大学をはじめとした数多くの**教育施設・教育機関**のある文教の地として知られています。
- 森鷗外や夏目漱石など近代文学を築いた多くの文人たちが暮らしたゆかりの地であり、小石川後樂園や六義園など歴史ある**文化施設、観光資源**が集積しています。
- 特別区全体よりも**年少人口と生産年齢人口**の割合が高く、外国人人口は約1万人で、留学生が多くいます。

②社会情勢の変化

- 新型コロナウイルス感染症**の影響により、テレワークの推進やWebを通じたコミュニケーションツールの利用が拡大し、人々が時間や場所を選ばず参加可能な取組や活動が生まれています。
- ICT**（情報通信技術）を最大限に活用し、「超スマート社会」を実現するための「Society5.0」が提唱され、実現に向けた取組の推進が求められています。
- 平成27年9月に「**持続可能な開発目標 SDGs**」が国連サミットで採択されました。その視点を活かし、持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現に向けて、各国が様々な取組を実施しています。
- 健康寿命の延伸により**人生100年時代**が到来し、人々が健康に活動し続けられる社会の実現が求められており、生涯にわたる学習機会の創出や、健康な生活の維持が重要となっています。

③「文の京」総合戦略で示されている考え方

- 「文の京」総合戦略は、本区が目指すべき主要課題を明らかにした「重点化計画」で、財政的な裏付けを伴う区の最上位計画であり、令和2年3月に策定しました。この戦略は、広く区民や区議会の参画により創り上げた基本構想（平成22年6月策定）の理念を継承しており、区政のあらゆる分野や区民等の地域活動における共通の指針となっています。基本構想を貫く理念は以下の通りです。

①みんなが主役のまち

区が区民、地域活動団体、非営利活動団体、事業者などと対等の関係で協力し、互いを尊重しながら持てる力を発揮できるまちを目指します。

②「文の京」らしさのあふれるまち

学ぶことに深い愛着と強い誇りを持つとともに、区と区民を含む新たな公共の担い手と力を合わせて発展させていく自治のまちを目指します。

③だれもがいきいきと暮らせるまち

子ども、高齢者、障害者、外国人をはじめ、地域社会を構成するさまざまな人たちが人権を尊重し、互いの立場を思いやりながら行動するとともに、一人ひとりが**個性豊かにいきいきと暮らせる**まちを目指します。

④現在のアカデミー推進計画から継承・発展させる考え方

- 「区内まるごとキャンパスに」の考え方を継承します。
- 文京区が有する**資源を保存・活用**し、だれもが**学び、交流**することを目指し、学びと交流を通じて、これまで築いてきた**価値を継承**し、新たな**価値を創造**します。
- さらに、昨今の社会情勢の変化を踏まえると、単一の分野における取組だけではなく、**分野間の連携による取組も重視**し、様々な課題に対応することが必要です。

(2) 次期文京区アカデミー推進計画の基本理念

区内まるごとキャンパスに

— (仮) 豊かな学びと交流を創る多様性を活かしあうまち「文の京」 —

本区は、「アカデミー推進計画」の名称の由来である数多くの教育施設・教育機関のある文教の地として知られています。また、森鷗外や夏目漱石など近代文学を築いた多くの文人ゆかりの地であり、小石川後樂園や六義園など歴史ある文化施設や観光資源が集積しています。

これまで、本区は、区内に有する多彩で豊かな文化・歴史・学びに関する資源を保存・活用して、だれもが学び、交流することを目指し、学びと交流を通じて「文の京」としての価値の継承と新たな価値の創造のため、様々な取組を実施してきました。

一方で、新型コロナウイルス感染拡大に伴う「新しい生活様式」の実践、ICT（情報通信技術）の技術革新の進展、「持続可能な開発目標 SDGs」の採択、人生 100 年時代の到来など、目まぐるしく社会情勢が変化しています。全国的に少子高齢化が進むなか、本区は年少人口と生産年齢人口が多く、在住外国人には留学生が多いことから、今後さらに人々の働き方やライフスタイル、行政に対するニーズなどの多様化が進展すると考えられます。

このように、多様なニーズへの対応が求められる中で、本区が将来にわたって文化・歴史・学びに関する資源を保存・活用し、学びと交流を通じて価値の継承と創造を続けるためには、引き続き「区民まるごとキャンパス」の考え方を重視し、著しく変化する社会情勢に柔軟に適応しながら、本区の有する資源や環境にも多様性を認め、互いに活かしあうまちを目指す必要があります。

本計画では、「学習活動」「スポーツ」「文化芸術」「観光」「国内・国際交流」の5つの分野の取組を一体的に展開し、さらに分野間の連携による取組も重視しながら、多様な地域課題に対応するとともに、主役となる一人ひとりが、いきいきと楽しく自分らしく学び、交流することのできるまち「文の京」を創り上げます。

以上のことを踏まえ、前計画の基本理念「区内まるごとキャンパスに」を引き継ぎ、副題を『豊かな学びと交流を創る多様性を活かしあうまち「文の京」』と改定しました。

次期文京区アカデミー推進計画の3つの多様性

1 3つの多様性

次期文京区アカデミー推進計画では、5分野それぞれの「多様性」の考え方を踏まえ、「人」「環境」「資源」という3つの視点から多様性を捉えるとともに、これらを重視しながら、異なる主体や分野をつなげ、相互に連携を図ることで新たな価値の創造を目指します。

(1) 人の多様性

性別・国籍・障害の有無や子どもから高齢者という年代の違い、働いている人や子育て中の人といったライフスタイルの違いを踏まえた取組、さらに人それぞれの興味・関心や能力に応じて各分野の活動を楽しめる環境づくりを推進します。

区民に加え、区内事業者、大学、交流自治体など多様な主体と連携した取組を推進します。

また、区や区民と様々な方法で継続的に関わる「関係人口」の創出を推進します。

(2) 環境の多様性

区内のスポーツ施設、教育施設、文化施設などでの取組だけでなく、区を越えた交流自治体における取組も推進します。また、施設を訪れなくても、どこでも活動を楽しめるように、オンライン形式などを活用した取組を推進します。

人々のライフスタイルの多様化に伴い、時間帯にとらわれず、自分の好きな時に好きな場所で親しめる環境づくりを推進します。

(3) 資源の多様性

区内にある豊富な文化資源や観光資源などを分野横断的に活用します。各分野の活動を支える・推進する人材の育成にも、力を入れて取り組みます。

各分野における活動内容の多様化に伴い、分野を幅広く定義する一方で、行政が担う役割や優先順位を「地域性」などの視点から明確にした上で、取組を推進します。

2 5分野における「多様性」の考え方

学習活動

- 生涯にわたって学習活動を続けていくために、子どもの頃から学校教育とは別の「学び」の場や機会が重要である。
- 障害の有無にかかわらず参加できる講座や講演会の提供を検討する必要がある。
- 働いている子育て中の人、夜間や土日でないとしても講座を受講できない可能性が高い。平日の昼間だけでなく、夜間や土日の保育サービスの提供を検討する必要がある。
- インターネットを活用し、オンラインで「いつでも」「どこでも」学ぶことのできる環境づくりを整備することが重要である。
- 新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、「オンライン」での講座や打合せが一つの選択肢として定着しつつある。一方、オンラインでは伝えきれないこともあり、「仲間づくり」や「まちづくり」には、「オンライン」と「対面」の双方の良さを活用することが重要である。

スポーツ

- 性別や年齢、障害の有無などを受け入れ互いに認め合うことを基本概念とし、一人ひとりが同じ状況で積極的にスポーツに親しむことのできる環境づくりが重要である。
- 世代によりスポーツ実施率にばらつきがあり、働いている人や子育て中の人をはじめ、時間や場所、激しい運動等に制限のある方なども、健康で生き生きと過ごすためインターネットやCATVを活用し、気軽にスポーツに親しむことのできる環境を整備することが重要である。
- 誰もが主役としてスポーツを通して社会との関わりを持ち、社会に進出できるきっかけとなるよう、充実したサポート体制と、一人ひとりの個性に合った参画手段を選択できる環境が重要である。
- パラスポーツの普及を通じて、社会や日常の中で障害者が抱えている悩みや課題に対する区民の新たな気づきや、課題解消に向けた柔軟な発想力の向上につなげ共生社会への理解を深めるよう、多世代が生涯にわたって学び続けられる環境を提供することが重要である。
- 国や都、他自治体の政策をみると、スポーツは「する」「みる」「ささえる」の視点で活動が分けられているケースが多く、人それぞれの興味・関心や志向、能力に応じた楽しみ方や関わり方を尊重できるよう、区の地域特性を活かし、産官学民との連携を深めることが重要である。

文化芸術

- 文化芸術は、鑑賞して楽しむ主体の視点と表現して活動する主体の視点がある。鑑賞して楽しむ主体は、性別・年齢・障害の有無・国籍・ライフステージ等によって様々であり、幅広い人たちが親しみやすいようにすることが重要である。一方、表現して活動する主体は、プロから愛好家（個人・団体）まで、レベル別の視点も含まれる。
- 場所・空間の多様性としては、シビックセンター・アカデミー施設などの区施設、ホール、学校施設・保育園、社会福祉施設、公園、駅、神社仏閣・教会などに加えて、区を越えた交流自治体への展開も考えられる。
- 活動時間は朝・昼・夜、平日・休日など、いつでも取り組めるような環境づくりが重要であり、その一つの方法がオンラインによる動画配信と考えている。
- 文化芸術に親しむ方法として、従来の対面形式などの直接的な接点のみならず、オンライン配信（LIVE、収録）、テレビ、ラジオといった間接的な接点も含めて検討することが重要である。
- これまで伝統文化に関するジャンルに力を入れて取り組んできたが、ダンス・ヒップホップ・アニメなどの若者に親しまれやすい文化や、韓流ブームなどの海外文化等多岐に渡って文化芸術の対象となる。このような幅広い対象の中から行政が担うべき範囲を明確にしておく必要があり、「地域性」は一つの基準になると考えている。

観光

- 本区は、自然（花、庭園等）、歴史的・文化的遺産、文人、文化・観光施設（博物館、美術館、レジャー施設等）、花の五大まつり等のイベント等の豊富な観光資源に恵まれており、区内事業者（商店街等）、民間企業、大学、ボランティア等の様々な担い手との連携による観光振興や地域経済の活性化に向けた取り組みが必要である。
- 受け手としては、区内外を問わず子どもから高齢者、外国人等が考えられ、様々な人たちが気軽に参加でき、また本区の魅力や情報等を享受できる環境づくりが求められている。
- 情報発信や参加方法は、リアルとデジタルに大別でき、リアルは、ちらしなどの紙媒体による情報発信や対面によるまち歩きなどが挙げられる。一方、デジタルは、パソコンやスマートフォンなどを通じたホームページや SNS による情報発信、また、オンラインツアー等があり、これらの手法を効果的に活用していく必要がある。

国内・国際交流

- 国内・国際交流の分野では、国内交流は協定を締結している自治体、国際交流は、姉妹都市や友好都市提携をしている自治体と行っている。交流する主体は、区民、区民が所属する団体、学校（留学生含む）、区内事業者などで共通している。
- 交流の方法は、新型コロナウイルス感染症の影響で、対面形式に加えオンラインによる交流も増加傾向にあり、双方の良さを活用することが重要である。また、国際交流については、言語の壁があり、多言語化や、やさしい日本語による対応が求められる。
- 交流にあたってのテーマは、文化、経済、食、教育、防災、観光など幅広い分野となっており、国内・国際交流ともに共通している。
- 交流の結果、文京区と各交流地域の相互理解、異なる価値観の理解、文京区への愛着の醸成などの効果が期待できる。

計画の考え方

